信濃町の埋蔵文化財

長野県上水内郡信濃町

平成24年度町内遺跡発掘調査報告書

―上山桑Ａ遺跡ほか―

２０１３

信濃町教育委員会

例　言

1．本書は平成24年度に実施した長野県上水内郡信濃町における開発事業に伴う試掘調査及び工事立会の報告書である。
2．調査は国からの補助金交付を受けて信濃町教育委員会が実施した。
3．本書の執筆、編集は両査担当者である渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を黒澤山美がおこなった。
4．本調査の遺物、写真等の資料はすべて信濃町教育委員会に保管されている。出土資料の記号は上山桑A遺跡が「12KYA」である。
5．調査体制は次のとおりである。

調査主体者	信濃町教育委員会	
事務局	教育長	静谷 ·男
	教育次長	伊藤 均
	生涯学習係長	風間睦男
調査担当者	生涯学習係	渡辺哲也

発掘参加者

（上山桑A遺跡）	大沢正志、田村勇
（美野里遺跡）	大沢正志、田村勇
（清水東遺跡）	大沢正志、長谷川勉
整理参加者	黒澤由美

6．土層の土色観察には『新版標準土色帖』［小山・竹原1967］を用いた。
7．調査をおこなうにあたり、下記の方々や機関にご指導、ご協力をいただいた。記してお礼を申し上げる次第である。

（敬称略、五十音順）
遠藤哀、風間睦男、小島ゆう子、佐藤美枝子、松村尚、丸山利正、丸山晴美、宮下大樹、信濃町総務課、信濃町建設水道課、ソフトバンクモバイル株式会社、株式会社ミスズライフ

目　次

Ⅰ　信濃町の環境と遺跡 …… 1
1．自然的環境 …… 1
2．歴史的環境 …… 2
Ⅱ　調査の内容及び成果 …… 3
1．小本道遺跡 …… 3
2．上山桑A遺跡（2012携帯電話基地局地点） …… 4
3．仲町遺跡 …… 7
4．狐久保遺跡 …… 8
5．大久保南遺跡 …… 9
6．上ノ原遺跡 …… 10
7．東裏遺跡 …… 10
8．美野里遺跡（2012個人住宅地点） …… 11
9．柳原遺跡 …… 12
10．柳原遺跡 …… 13
11．清水東遺跡（2012個人住宅地点） …… 13
12．丸谷地遺跡 …… 14
13．御料遺跡 …… 15

Ⅰ　信濃町の環境と遺跡

1．自然的環境

長野県上水内郡信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県妙高市と県境を接している。日本海に面した海岸平野の高田平野と、内陸盆地の長野盆地との間にあたり、西には北から妙高、黒姫、飯縄火山、東には斑尾火山がそびえている。これらの火山に挟まれた地域には、標高650～750mの起伏に富んだ高原状の台地が広がっている（図１）。

西側の３つの火山では南に位置する飯縄山が最も古く、12から13万年前には活動を終了している。黒姫山は古期の活動が16から11万年前で、新期の活動がおよそ６万年前に活発になり、３万年前頃には活動が衰えている。妙高山は新期の活動が10万年前頃にはじまり、約6000年前に中央火口丘が形成され、現在に至っている。これら３つの火山の活発な活動により、各火山体の東側一帯には火山灰層が広く厚く分布している。中部更新統の火山灰層は20～30m、上部更新統の火山灰層は10m程である。東側の斑尾山は西側の火山よりも古く、およそ30万年前には活動を終えていたと考えられている。この斑尾山の西麓に広がる緩やかな起伏の地形を、黒姫火山の崩壊によって生じた池尻川岩屑なだれ堆積物がせき止めたことにより、およそ７万年前に野尻湖の原型が誕生した。現在の野尻湖は面積が3.96㎢で、水面の標高が654mである。こうした東西の火山に挟まれた低地帯があって、主に後期更新世から完新世の湖沼・河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などが現在の居住域となっている。

野尻湖の水は池尻川から南西へ流れ出した後、北へ向きを変えて関川に合流し、日本海へ注ぐ。長野市戸隠を

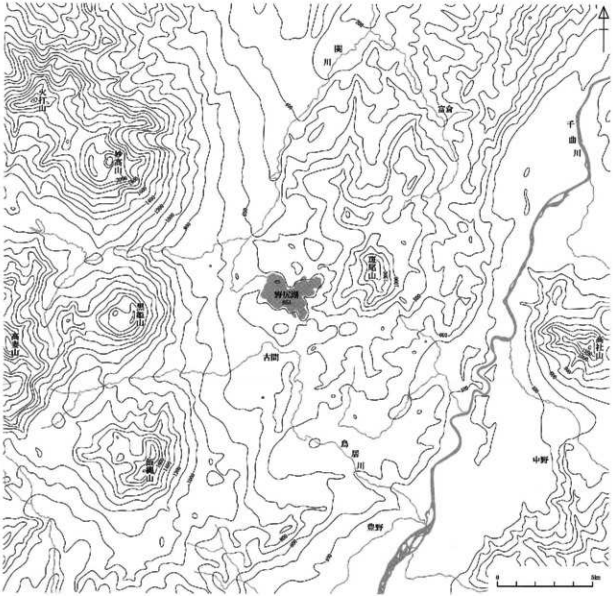


図１　信濃町周辺の地形

水源とする鳥居川は南東方向へ流れ出し、千曲川と合流して、その後信濃川と名前を変えて日本海へ注ぐ。二つの水系の分水嶺は現在の上信越自動車道信濃町インターチェンジ付近と考えられるが、この辺りはなだらかな高原状の地形となっている。分水嶺がなだらかな地形であることは、急峻な山地を越えることなく内陸部へ向かうことができることを意味しており、古くから人や動物の移動経路になっていたものと推測される。

現在人々が暮らす居住域は標高700m前後の地域で、日本海側の気候に属し、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的冷涼で、避暑地としても利用されている。

2．歴史的環境

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあたるため、古くから人々の往来が盛んであったと考えられる。野尻湖西岸の湖底に広がる立が鼻遺跡はおよそ４万年前の狩猟・解体場（キルサイト）で、その周辺をナウマンゾウとそれを追う旧石器人が往来したと考えられている。野尻湖周辺には旧石器時代～縄文時代草創期の遺跡が40ヶ所あり、その遺跡のまとまりは野尻湖遺跡群と称されている。構成する遺跡はそれぞれ面積が広く、遺物分布の密度が高いことから、野尻湖の西に連なる丘陵上にはとぎれること

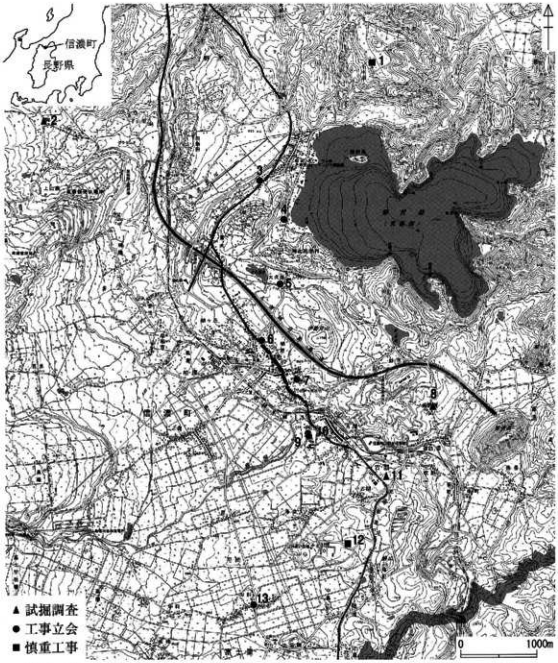


図２　調査地の位置（信濃町役場平成22年９月作成1/25,000地形図使用）※番号は表１に対応

表1　平成24年度に埋蔵文化財の通知・届出のあった遺跡一覧

No.	遺跡名	よみ	原因	調査方法	調査面積	調査期間	出土点数	発掘届日	終了届日
1	小本道	こほんどう	合併浄化槽	慎重工事	(2.147㎡)	—	—	6/29	—
2	上山桑A	かみやまくわえー	携帯電話基地局	試掘調査	12㎡	7/24～8/2	15点	6/21	9/14
3	仲町	なかまち	個人住宅	工事立会	(96.88㎡)	12/27	0点	11/19	—
4	狐久保	きつねくぼ	個人住宅	工事立会	(336.17㎡)	9/26	0点	9/10	—
5	大久保南	おおくぼみなみ	道路改良	工事立会	(54.2㎡)	5/7	0点	4/20	—
6	上ノ原	うえのはら	個人住宅	工事立会	(98㎡)	7/3	0点	6/1	—
7	東裏	ひがしうら	駐車場舗装	工事立会	(501.9㎡)	11/9	0点	10/26	—
8	美野里	みのさと	個人住宅	試掘調査	2.4㎡	6/25	0点	6/13	8/6
9	柳原	やなぎはら	倉庫	工事立会	(40.06㎡)	4/17	0点	2/9	—
10	柳原	やなぎはら	駐車場舗装	工事立会	(1358㎡)	12/3	0点	11/8	—
11	清水東	しみずひがし	個人住宅	試掘調査	4.8㎡	5/15～5/16	0点	4/26	5/25
12	丸谷地	まるやち	工場	慎重工事	(939.08㎡)	—	—	9/21	—
13	御料	ごりょう	倉庫	工事立会	(51.15㎡)	10/9	0点	7/9	—

※調査面積の内、（　）内の数字は調査対象面積

なく遺跡がつながっているような印象を受ける。近年、上信越自動車道建設や国道18号線の改築工事などにより、長野県埋蔵文化財センターや信濃町教育委員会によって多数の遺跡で広範囲に渡って発掘調査がおこなわれ、膨大な数の遺物が得られている。それらの遺物の様子からは、各方面から人々が流入してきたことがうかがえる。

古代では東山道支道が通っていたと推定され、また、江戸時代には北国街道が整備され、加賀金沢藩の参勤交代や、佐渡からの金銀の運搬など、重要な街道として利用されていた。現在も国道18号線、上信越自動車道、JR信越本線が通っており、交通の要所であることに変わりはない。また、関川がかつての信濃と越後の国境となっていたため、こうした歴史的な地理的条件を備えた地域でもある。中世の山城が多いことも、交通の要所として争奪戦がおこなわれた地であることを物語っている。

信濃町には現在までに173ヶ所の遺跡が知られている（信濃町教育委員会，2003a）が、以下のように時代によって遺跡数の変遷に特徴が見出せる。①旧石器時代の遺跡が多く存在する。②縄文時代では草創期、早期の遺跡数が多く、前期以降の遺跡数は少なくなる。特に中期が少ない。③弥生時代、古墳時代の遺跡数は少なく、平安時代になると遺跡数が増加する。

Ⅱ　調査の内容及び成果

埋蔵文化財包蔵地における土木工事に対し、平成24年度は13件の保護協議をおこない（図2、表1）、試掘調査を3件、工事立会を8件実施した。また、慎重工事としたものは2件あった。試掘調査の結果、本調査が必要と認められるものはなく、今年度は本調査を実施しなかった。原因では個人住宅建設が5件、駐車場舗装が2件、工場建設1件、倉庫建設2件、携帯電話基地局建設1件、道路改良1件、住宅用合併浄化槽設置が1件であった。総数は昨年に比して4件減少している。

以下に調査の内容と成果を記述する。

1．小本道遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字野尻字小本道2970-5
原因	住宅用合併浄化槽設置
対応	慎重工事
調査面積	2.147㎡（工事面積）

B．遺跡の環境

野尻湖の北岸の道路から古海集落へ向かう県道信濃斑尾高原線の分岐点から700m程北へ行くと、西側へ下る道があり、その先に小規模な盆地がある。その中に大本道と小本道の2つの集落があるが、小本道遺跡は小本道集落のほぼ全域に広がる（図3）。山地の裾部から北東方向の低地へと下る緩斜面上に広がり、縄文時代早期・前期の遺跡とされている（信濃町教育委員会，2003a）

図3　小本道遺跡の範囲と調査地の位置

が、これまでに発掘調査は実施されておらず、遺跡の詳細は不明である。

小本道遺跡内で個人住宅で使用する合併浄化槽の設置が計画されたが、予定地は低地に7m程度の埋め立てをおこなって道路の高さまでかさ上げしたという情報を得たため現地を確認したところ、申告通りの状況が確認できた。工事で掘削する深さは埋め立ての範囲内に収まることから、慎重工事で対応してもらうこととした。

写真1　小本道遺跡

2．上山桑A遺跡（2012携帯電話基地局地点）

A．概要

所在地	信濃町大字野尻字上山桑2091番3
原因	携帯電話基地局建設
調査方法	試掘調査
調査面積	12㎡
調査期間	平成24年7月24日～8月2日
出土遺物点数	15点

B．遺跡の環境

上山桑A遺跡は黒姫山南東麓の東側へ緩やかに下る傾斜地に位置する。隣接地では平成10年に県道改良工事に伴う発掘調査がおこなわれ（図4）、縄文時代早期と平安時代の遺物が出土している（信濃町教育委員会，2004a）。およそ2000㎡を発掘し、1459点の遺物が得られているが、遺構は確認されていない。今回の建設予定地付近では平安時代の土師器片が少量出土しており、同時代の遺跡が広がっていることが予想された。

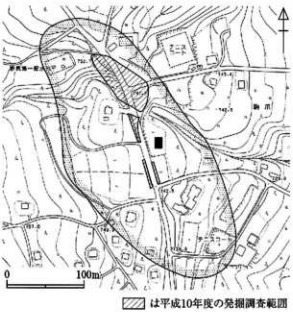


図4　上山桑A遺跡の範囲と調査地の位置

C．調査に至る経緯

遺跡内で携帯電話基地局の建設が計画された（図4）。建設予定地の現状は平坦な荒無地であったため遺跡が残されているものと判断し、まずは試掘調査を実施して、遺跡の状況を確認することとし、状況に応じて本調査へ移行することにした。

D．調査の方法

建設予定地は自然地形と考えるには不自然な状況が見られたため、事前に土地の所有者に確認したところ、畑地に1.5m程度の厚さで土を入れ、隣接する県道とほぼ同じ高さまでかさ上げしたという情報を得ることができた。よって盛り土の下位に旧耕作土があり、その下に遺跡が残されているものと予想した。工事予定範囲の中で鉄塔を建設する範囲は地下5m程度まで基礎工事のために掘削するが、それ以外はフェンスを建てる程度であり（図5）、掘削の深さは盛り土の厚さの中で収まるということであったため、試掘調査の範囲を鉄塔の基礎範囲のみとした。

写真2　上山桑A遺跡　調査の様子

最初にバックホウによって鉄塔の基礎工事の範囲の盛り土を除去し、旧耕作土の上面を出した後、建設予定地の四隅に1.5m×1mの試掘トレンチを4ヶ所（TP-1～4）を設定し（図6）、手掘りによって発掘した。遺物が出土したトレンチは遺物の広がりを確認するために拡張することとし、TP-1は2m×3.5m、TP-3は2m×1.5mに広げた。

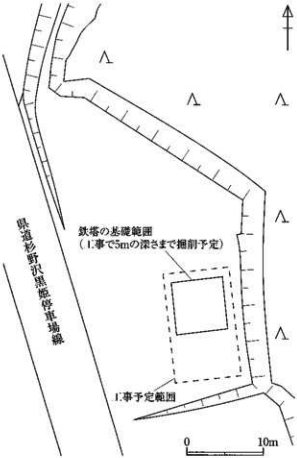


図５　上山桑A遺跡の調査範囲

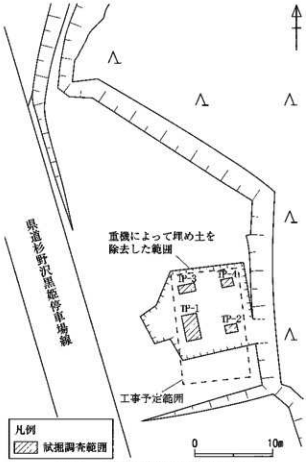


図６　上山桑A遺跡試掘調査の位置

E．調査の結果

a．層序

地表下には160cm～210cmの埋め土が確認された（図８）。北東側の埋め土が最も厚いことから、旧地形は東側が下がっていたことがわかる。埋め土の下位にはⅠ層が分布し、全体に黄褐色土が混入していることから耕作土と考えられる。Ⅱ層以下は野尻湖周辺で一般に見られる層序（野尻湖人類考古グループ，1994）と対比できる層序が確認できた。Ⅱa層、Ⅲ層、Ⅳ層は火山灰が含まれる量等の違いによって分けたが、いずれも［柏原黒色火山灰層］に対比できるものと思われる。Ⅱb層は火山灰が層となっているもので、TP-1とTP-4の一部で確認できた。Ⅴ層は上部野尻ローム層Ⅱ［モヤ］に、Ⅵ層は上部野尻ローム層Ⅱ上部［上Ⅱ上部］に対比できるものと思われる。遺物はⅠ、Ⅱa、Ⅲ、Ⅳ層から出土した。

b．遺物の出土状況

遺物はTP-1、TP-2、TP-3から出土した（図７）。TP-1では12点の土師器が出土したが、その内10点はⅠ層からの出土である。これらは耕作による攪乱の影響を受けているものと考えられ、遺物の分布状況から遺跡の性格を推測することはできない。TP-2からは２点、TP-3からは１点のみの出土であった。

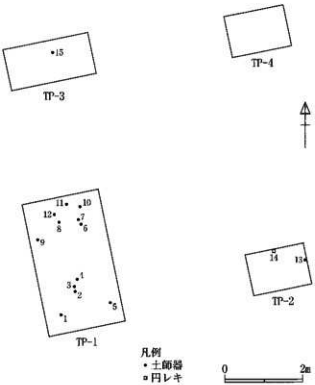


図７　上山桑A遺跡の遺跡分布

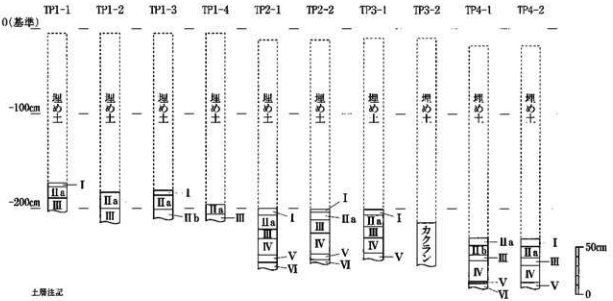
凡例

試掘調査の範囲　柱状図の番号

TP○-○

柱状図作図位置

調査終了時の底面の土層
（ローマ数字は柱状図の土層注記に準ずる）



土層注記

Ⅰ：黒褐色Ⅰ（5YR2/1）
粘性なし、しまりなし
黄灰色Ⅰが全体に散る
下底面が直線的で、下位の層との境界が明瞭［耕作土］

Ⅱa：黒褐色Ⅰ（10YR3/2）
粘性なし、しまりあり
直径1cmまでの褐色土（10YR4/4）のブロック（火山灰）が全体に散る
［柏原黒色火山灰層］

Ⅱb：にぶい黄橙色火山灰（10YR6/3）
粘性なし、しまりあり
シャリシャリしている

Ⅲ：黒褐色土（5YR2/1）
粘性なし、しまりあり
直径2cmまでの褐色土（10YR4/4）のブロック（火山灰）を含む
［約原黒色火山灰層］

Ⅳ：黒褐色土（5YR2/1）
粘性なし、しまりあり
褐色土粒が少量散る
［約原黒色火山灰層］

Ⅴ：黒褐色土（7.5YR3/2）
粘性少しあり、しまりあり［モヤ］

Ⅵ：褐色土（10YR4/4）
粘性あり、しまりあり

図8　上山桑A遺跡の調査範囲と土層

c．出土遺物

遺物は15点出土し、その内14点は土師器の小片であった（表２）。その内の３点は黒色土器である。多くはⅠ層の耕作土中からの出土であり、耕作の影響のためか小片となってしまっていて、図化は困難であったため、写真のみ掲載した（遺物写真）。ほかに円レキが１点出土した。これはⅣ層から出土したため人為的に持ち込まれたものと考えられたことから遺物としたが、加工痕はなく、用途も不明である。出土した遺物から時期を特定する根拠に乏しいが、須恵器が出土せず、土師器と黒色土器が組成される状況から、隣接地で平成10年に実施された発掘調査で出土した遺物と同時期の10世紀頃の所産であると考えておきたい。

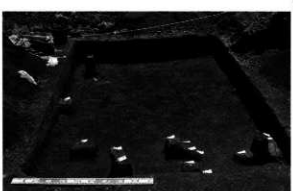
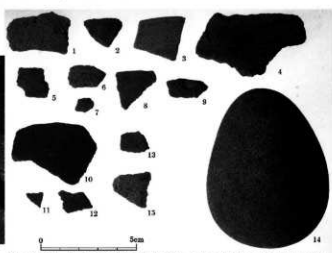


写真３　上山桑Ａ遺跡　TP-1遺物出土状況



遺物写真　上山桑Ａ遺跡出土遺物（番号は表２に対応する）

表２　上山桑Ａ遺跡の出土遺物観察表

	遺物番号	層	種類	器種	色（外）	色（内）	含有物	厚さ(mm)	備考
1	TP1-1	Ⅱa	土師器	杯	明赤褐色	橙色	qt ho シロ アカ レキ	7	
2	TP1-2	Ⅰ	土師器	(不明)	橙色	灰赤色	qt ho シロ アカ レキ	6	
3	TP1-3	Ⅰ	土師器	杯	橙色	橙色	qt ho シロ アカ レキ	4	口縁
4	TP1-4	Ⅰ	土師器	甕	灰褐色	褐灰色	qt ho シロ アカ レキ	6	
5	TP1-7	Ⅰ	土師器	杯	明赤褐色	にぶい褐色	qt ho シロ アカ 水晶 レキ	4	
6	TP1-10	Ⅰ	土師器	杯	橙色	橙色	qt ho シロ レキ	4	
7	TP1-11	Ⅰ	土師器	(不明)	赤褐色	明赤褐色	qt シロ アカ	3	
8	TP1-16	Ⅱa	土師器	杯	にぶい褐色	灰褐色	qt シロ アカ レキ	4	口縁
9	TP1-19	Ⅰ	土師器	(不明)	明赤褐色	明赤褐色	qt ho シロ レキ	6	
10	TP1-21	Ⅰ	黒色土器	杯	明赤褐色	黒褐色	qt ho シロ レキ	5	
11	TP1-22	Ⅰ	土師器	(不明)	明赤褐色	にぶい褐色	qt シロ アカ レキ	3	
12	TP1-23	Ⅰ	黒色土器	杯	明赤褐色	褐灰色	qt ho シロ 水晶 レキ	3	
13	TP2-1	Ⅳ	黒色土器	杯	明赤褐色	黒色	qt シロ アカ	4	ミガキ
14	TP2-2	Ⅳ	円レキ					—	
15	TP3-1	Ⅱa	土師器	杯	明黄褐色	橙色	qt ho シロ レキ	5	

qt：石英、ho：角閃石、シロ：白色岩片、アカ：赤色岩片、水晶：2mm以上の結晶、レキ：2mm以上の小礫

３．仲町遺跡

Ａ．概要

所在地　　信濃町大字野尻字上ノ原544-6、540-3

原因　　個人住宅建設

調査方法　　工事立会

調査面積　　99.88㎡（工事面積）

調査日　　平成24年12月27日

出土遺物点数　　０点

Ｂ．遺跡の環境

仲町遺跡は野尻湖の西側に北東―南西方面にのびる仲町丘陵上に広範囲に分布する遺跡で（図９）、旧石器時代から近世に至る複合遺跡である。野尻湖発掘調査団と

写真４　仲町遺跡

いう研究団体が野尻湖底でナウマンゾウ化石等の発掘調査を1962年以来おこなっているが、その調査団が、陸上に旧石器人の生活面を求めて学術発掘を実施したのが、この遺跡での発掘調査のはじまりである。1974年の地質調査にはじまり、1976年の第1回陸上発掘から1998年の第8回までおこなわれた。緊急調査では1977年の水道管敷設工事に伴う調査（長野県上水内郡信濃町水道課，1978）が最初で、以後、多くの調査が実施されている。特に国道18号野尻バイパス建設に先立って実施された発掘調査は大規模で、平成11年から3ヶ年に渡って実施された（長野県埋蔵文化財センター，2004）。また、このバイパス建設のために移転が必要となった住宅等の建設に先立って発掘調査が実施されている（信濃町教育委員会，2000）。これらの発掘調査では旧石器時代の遺物が大量に得られ、ほかに縄文から近世までの遺構、遺物が検出されており、各時代でこの遺跡内が生活の場として利用されてきたことがうかがえる。

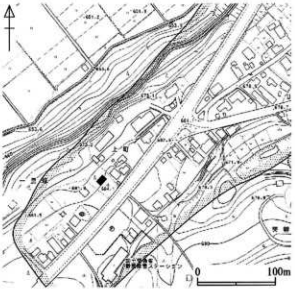


図9　仲町遺跡の範囲と調査地の位置

C．調査に至る経緯と結果

遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図9）。平成18年に隣接した土地で同様の住宅建設が計画され、工事立会を実施したことがある（信濃町教育委員会，2007a）。この時と同様に、北西方向へ下る原野に盛り土をおこなって土地をかさ上げしたところへ住宅を建設するという計画で、盛り土は深いところで150cm以上になり、基礎工事で掘削する範囲の大半は盛り土の中で収まるというものであったため、対応は工事立会とした。工事の際、小型のバックホウで掘削する時に立会ったところ、計画の通り、ほとんどが盛り土中に収まっていたが、盛り土の薄い東側の一部で旧地表面が掘削された。遺物を包含する可能性のある地層を確認したが、範囲は狭小であり、遺構、遺物は確認できなかったことから、遺跡への影響は少ないものと判断し、調査を終了した。

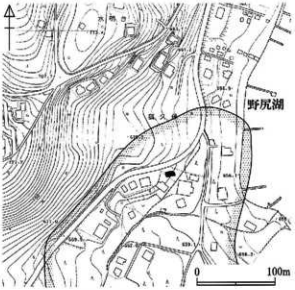


図10　狐久保遺跡の範囲と調査地の位置

4．狐久保遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字野尻狐久保380番3,4
原因	個人住宅建設
調査方法	工事立会
調査面積	336.17㎡（工事面積）
調査日	平成24年9月26日
出土遺物点数	0点

B．遺跡の環境

狐久保遺跡は野尻湖の西岸でもっとも西へ張り出した先に位置し、北北東へ緩やかに下る斜面に立地する（図10）。遺跡内では1967年に県道建設に伴う発掘調査が実施され、縄文時代草創期の隆起線文土器等が出土している（小林，1968）。また、個人住宅建設に伴う試掘調査がこれまでに2件実施されている。2002年の調査では弥生時代の遺物が出土し（信濃町教育委員会，2003b）、2005年の調査では縄文時代晩期の遺物が出

写真5　狐久保遺跡

土している（信濃町教育委員会，2006）。

C．調査に至る経緯と調査の結果

遺跡内で個人住宅建設が計画された（図10）。建設予定地は隣接する県道よりの土地が低いことから、50～170cmの盛り土をおこなった後基礎工事で40cm程掘削する計画であったため、掘削は盛り土の範囲に収まるものと判断し、対応は工事立会とした。工事の際、小型のバックホウで掘削する時に立会ったところ、計画の通り、全体が盛り土の中に収まることを確認した。ただし、擁壁を設置する部分を掘削した際、南側の一部で旧地表面が掘削された。遺物を包含する可能性のある地層を確認したが、範囲は狭小であり、遺構、遺物は確認できなかったことから、遺跡への影響は少ないものと判断し、調査を終了した。

5．大久保南遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字柏原1004番地先
原因	道路改良
調査方法	工事立会
調査面積	54.2㎡（工事面積）
調査日	平成24年5月7日
出土遺物点数	0点

B．遺跡の環境

大久保南遺跡は伊勢見山山頂から北西方向へ下る尾根の延長上に広がる遺跡で、旧石器時代と縄文時代早期の遺跡とされている（信濃町教育委員会，2003a）。1985年に土取りが原因の発掘調査が実施され（柏原町区誌編纂委員会，1988）、1995年には上信越自動車道建設に伴う発掘調査（長野県埋蔵文化財センター，2000a、2000b）と、県道信濃信州新線建設に伴う発掘調査（渡辺，1996）が実施されている。1998年に個人住宅建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会，1999）、2007年に県道信濃信州新線改良工事に伴う発掘調査（信濃町教育委員会，2008a）が実施され、それぞれの調査において、おもに旧石器時代の遺物が多数出土している。

C．調査に至る経緯と結果

遺跡内で道路改良工事が計画された（図11）。計画は舗装されている町道に沿って側溝を敷設するというもので、工事で掘削する幅が1m以下と狭小であったために事前の発掘調査は困難と判断し、対応は工事立会とした。工事の際、小型のバックホウによって掘削する時に立会ったところ、工事区間で東側が最も深く掘削され、80cmの深さになった。深さ80cmの内、下位の15cmは自然堆積による黒ボク土で、野尻湖周辺の［柏原黒色火山灰層］に対比できる地層と思われる。それよりも上位の65cmは撹乱を受けた土と砕石などからなっており、かつての道路工事の際に埋められたものと考えられる。最も深いところで黒ボク土の上部15cmが掘削されたことになるが、遺物包含層までは達しない程度の深さである。さらに西側へ移動するに従い、掘削深度は浅くなるため、遺跡への影響は少ないものと判断し、調査を終了した。

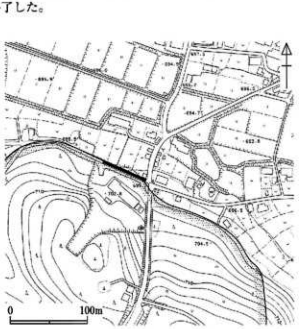


図11　大久保南遺跡の範囲と調査地の位置

写真6　大久保南遺跡

写真7　上ノ原遺跡

6．上ノ原遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字柏原165-1
原因	個人住宅建設
調査方法	工事立会
調査面積	98㎡（工事面積）
調査日	平成24年７月３日
出土遺物点数	０点

B．遺跡の環境

上ノ原遺跡は貰ノ木遺跡と東裏遺跡に挟まれた丘陵上に位置する。遺跡は面積が広く、過去に多数の発掘調査が実施されてきた。主な調査は1990年の開墾に伴う発掘調査（信濃町教育委員会，2008b）、1993年の町道改良工事に伴う発掘調査（信濃町教育委員会，2008c）、1994～1995年の上信越自動車道建設に伴う発掘調査（長野県埋蔵文化財センター，2000a、2000b）、1995年の店舗兼住宅建設に伴う発掘調査と個人住宅建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会，1996）、1995～1996年の県道改良工事に伴う発掘調査（信濃町教育委員会，2008d）、1996～1997年の町道改良工事に伴う発掘調査（信濃町教育委員会，1998）、1997年のガスパイプライン建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会，2007b）で、ほかにいくつか試掘調査が実施されている（信濃町教育委員会，2007a、2011）。これらの調査では主に旧石器時代の遺物が多数得られている。

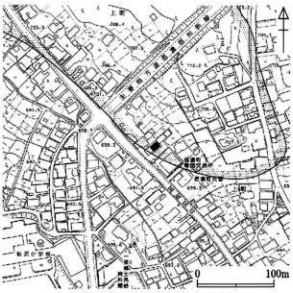


図12　上ノ原遺跡の範囲と調査地の位置

C．調査に至る経緯と結果

遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図12）。計画は既存の住宅を撤去した後に、ほぼ同位置へ新たに住宅を建設するというもので、既存の建物の基礎工事及びその撤去の工事によって改変され、建設予定地内に遺跡が残されている範囲は少ないことが予想されたため、対応は工事立会とした。基礎工事のために小型のバックボウで50cm程度掘削されたところで地層を確認したところ、上部の20cm程は攪乱を受けているが、下位の30cm程は自然堆積の層であることが判明した。しかし、この層は黄灰色粘土やシルト層で、水成層と考えられることから、遺物を包含する可能性は低いと判断し、調査を終了した。

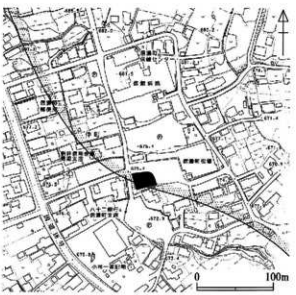


図13　東裏遺跡の範囲と調査地の位置

7．東裏遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字柏原428-2
原因	駐車場舗装
調査方法	工事立会
調査面積	501.9㎡（工事面積）
調査日	平成24年11月９日
出土遺物点数	０点

B．遺跡の環境

東裏遺跡は伊勢見山と国道18号線との間に位置し、伊勢見山南西側の山麓に、北西―南東方向に細長く広がる遺跡である。この遺跡は面積が広いことから、過去に多数の発掘調査が実施されてきた。主な調査は1993年の宅地造成に伴う発掘調査（信濃町教育委員会，

写真８　東裏遺跡

2004b)、1993～1995年の上信越自動車道建設に伴う発掘調査（長野県埋蔵文化財センター，2000a、2000b)、1997年の天然ガスパイプライン建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会，2007b)、1999年の町道建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会，2004b）などで、ほかにも小規模な発掘調査がおこなわれている（信濃町教育委員会，1997、2003b、2005、2007a、2008a、2012a)。

C．調査に至る経緯と調査の結果

遺跡内の信濃町役場駐車場で舗装工事が計画された（図13)。未舗装で使用されていた駐車場を舗装するというものであったが、旧地形が南西方向へ下る傾斜地であったところへ盛り土をして平坦に整地した後、駐車場として利用していることが確認できた。工事で掘削する深度は35cm程度とされており、盛り土の範囲内に収まることが予想されたことから、対応は工事立会とした。小型のバックホウで掘削された状況を確認したところ、掘削された地層はすべて砕石を多量に含んだ黒褐色土で、掘削範囲はすべて盛り土の中で収まることが確認できたため、調査を終了した。

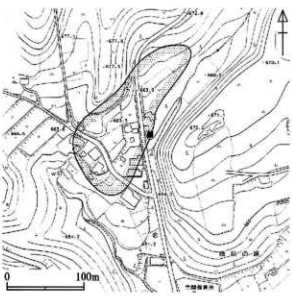


図14　美野里遺跡の範囲と調査地の位置

8．美野里遺跡（2012個人住宅地点）

A．概要

所在地	信濃町大字富濃字諏訪の原2114番地12
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査
調査面積	24㎡
調査日	平成24年6月25日
出土遺物点数	0点

B．遺跡の環境

美野里遺跡は野尻湖の南側に位置する谷状地形が、諏訪ノ原集落へ向かって南へと下る緩斜面上に広がる遺跡である。江戸時代の主要街道である北国街道の野尻宿で分岐して東へ向かい、針ノ木集落で飯山道と分かれて諏訪ノ原、船岳集落へと通じる古道の川東道が通る路線上にあたる。縄文時代と平安時代の遺跡とされ（信濃町教育委員会，2003a)、昨年度には県道の道路改良に伴う試掘調査が実施された（信濃町教育委員会，2012a）が、遺構、遺物は確認できなかったことから、遺跡の詳細は不明である。

C．調査に至る経緯

遺跡内で個人住宅建設が計画された（図14)。現状が畑地であり、過去に大きな改変を受けていないと考えられたことから、試掘調査を実施して状況確認をおこない、必要に応じて本調査へ移行することにした。

写真9　美野里遺跡　調査の様子

D．調査の結果

住宅の建設予定地は南へ下る傾斜地のため、盛り土をおこなって平坦にする計画であった。南側については厚く盛土が施され、基礎工事の掘削によって旧地表面以下を掘削する範囲は少ないと判断されたため、建設予定地の北側のみを調査することとし、2ヶ所に1.5m×0.8mの試掘トレンチ（TP-1、TP-2）を設置し、表土から手掘りによって発掘した（図15)。土層を見ると、Ⅰ層は耕作のために客土されたものと考えられる。Ⅱ層、Ⅲ層は黒色土系の地層で橙褐色の礫が全体に混入する。Ⅳ層は明褐色土であるが、同様に橙褐色の礫が混入するとともに、褐色スコリアも混入している。このようなⅡ～Ⅳ

写真10　美野里遺跡　TP-2完掘状況

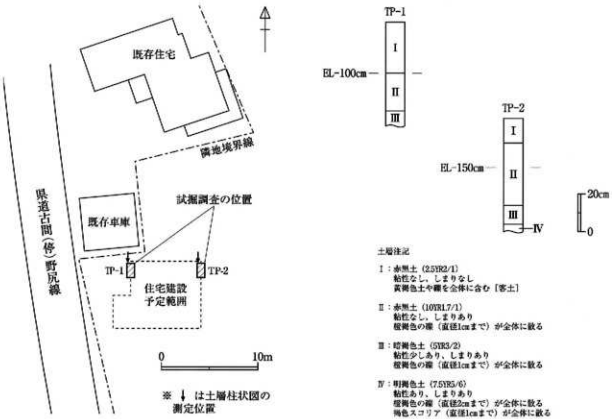


図15　美野里遺跡の調査範囲と土層

層の状況は崖錐性堆積物のように見られ、安定した堆積状況にはなかったものと思われる。遺構や遺物は確認できなかったことから、この地域に遺跡が残されている可能性は低いと考えられ、本調査の必要はないと判断し、調査を終了した。

9．柳原遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字古間559-1
原因	倉庫建設
調査方法	工事立会
調査面積	40.06㎡
調査日	平成24年４月17日
出土遺物点数	０点

B．遺跡の環境

柳原遺跡は旧北国街道古間宿を東に望む段丘上の高台に位置する。西側には一段低い面に水田が広がり、段丘面と水田との比高は約８ｍである（図16）。信濃町に５校あった小学校を統合し、信濃中学校の敷地内に小中学校が同居する新たな校舎を建設する計画が立てられた際、計画の初期の段階で遺跡の状況を確認するため、平成18年（2006）に試掘調査を実施した（信濃町教育委員会，2007a）。その結果、中学校校舎を建設した当時（昭和43～45年）に傾斜地を平坦にするため、地形的に高い西側を削平し、低い東側へ埋め立てて造成したことが判明し、埋め立てられたグラウンドの東側３分の１程度にのみ遺物包含層が残されていることを確認している。

図16　柳原遺跡の範囲と調査地の位置

C．調査に至る経緯

遺跡内で倉庫の建設が計画された（図16）。建設予定地は学校のグラウンドの西側に南北方向に通る道路の西

側で、道路と段丘崖に挟まれた平坦地であり、未舗装の駐車場として使用されていた。周辺の地形から、この場所についてもグラウンドの造成の際に同時に造成されたものと推測できたことから、遺物包含層はすでに削平され、残されていないものと判断されたことから、対応は工事立会とした。

基礎工事のために小型バックホウで70cm程度掘削された地層を観察したところ、上部の50cm程は埋め土であり、下部の20cm程は淡黄灰色の粘土層であった。造成によって粘土層まで削平されていることが確認でき、この地点においては遺跡が残されていないことが確認できたので、調査を終了した。

写真11　柳原遺跡（倉庫）

10. 柳原遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字古間559-1
原因	駐車場舗装
調査方法	工事立会
調査面積	1358㎡（工事面積）
調査日	平成24年12月３日
出土遺物点数	０点

B．調査に至る経緯と調査の結果

前掲の倉庫建設地の北側で、未舗装の駐車場として使用されていた場所を舗装することになった（図16）。倉庫建設地と同様に土地の造成によって削平されていることが予想されたため、対応は工事立会とした。

写真12　柳原遺跡（舗装）

小型バックホウで60cm程度掘削された地層を観察したところ、上部に３cm程度砕石が入れられ、それよりも下位には黄灰色粘土～シルト層が堆積していることを確認した。よって、この地点についても造成時に削平されたことにより遺物包含層が残されていないことが確認できたことから、調査を終了した。

11. 清水東遺跡（2012個人住宅地点）

A．概要

所在地	信濃町大字古間字清水東1374-8
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査
調査面積	4.8㎡
調査日	平成24年５月15日～16日
出土遺物点数	０点

B．遺跡の環境

清水東遺跡は吹野集落と小古間集落との間に挟まれた微高地に広がる遺跡で、旧石器時代、縄文時代、平安時代の遺跡とされている（信濃町教育委員会，2003a）。この遺跡は個人の方が採集した遺物が野尻湖博物館（現在の野尻湖ナウマンゾウ博物館）に寄贈されたことによって確認された。寄贈された遺物は旧石器時代の彫器と縄文時代早期の押型文土器である（野尻湖博物館，1987）。しかし、国道18号野尻バイパス改築工事に伴う発掘調査では遺構、遺物は検出されておらず（長野県埋蔵文化財センター，2013）、遺跡の性格等、詳細は不明である。

図17　清水東遺跡の範囲と調査地の位置

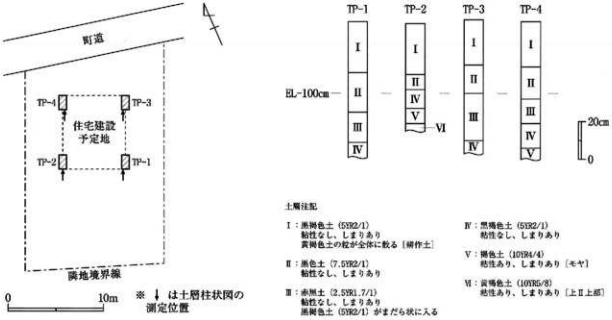


図18　清水東遺跡の調査範囲と土層

写真13　清水東遺跡　調査の様子

写真14　清水東遺跡　TP-1完掘状況

C．調査に至る経緯

遺跡内で個人住宅建設が計画された（図17）。現状が畑地であり、過去に大きな改変を受けていないと考えられたことから、試掘調査を実施して状況確認をおこない、必要に応じて本調査へ移行することにした。

D．調査の結果

住宅の建設予定地の四隅に1.5m×0.8mの試掘トレンチ（TP-1～4）を設置し、表土から手掘りによって発掘した（図18）。深さは基礎工事で掘削を予定している70cmを目安に掘り下げたが、遺構、遺物は検出されなかった。土層を見ると、I層は耕作土で、II～IV層は［柏原黒色火山灰層］に対比される黒ボク土で、V層は［モヤ］、VI層は［上II上部］に対比される層であり、野尻湖周辺の丘陵地で一般に見られる層序を確認した。TP-1とTP-3では黒ボク土が厚く堆積しており、検土杖による調査で地表下90cmまで続いていることがわかった。地層は良好に残されていることが判明したが、出土品がなかったことから、この地点における遺跡の密度は低いと考え、本調査の必要はないと判断し、調査を終了した。

写真15　丸谷内遺跡

12．丸谷地遺跡

A．概要

所在地　　信濃町大字平岡字向原156番地２

原因	工場建設
対応	慎重工事
調査面積	939.08㎡（工事面積）

B．遺跡の環境

丸谷地遺跡は鍋山の西側の、水田に囲まれた微高地に広がる遺跡で、これまでにいくつかの地点で発掘調査が実施されている。平成元年（1991）と平成２年に町道建設に伴う発掘調査が実施され、主に縄文時代と平安時代の資料が得られている（信濃町教育委員会，1994、2012b）。平成10年（1998）には工場建設に伴う発掘調査が実施され、同様に縄文時代早期と平安時代の資料が得られている（信濃町教育委員会，1999）。

今回計画された工事は、平成10年に発掘調査を実施した後に建設された工場内での増築であり、増築予定地の現地を確認したところ、平成10年の調査終了後に土地の造成がおこなわれ、平坦に削平された場所に建設することを確認した（図19）。すでに調査が済んでいる地点であり、かつ、造成によって遺跡が消滅したと考えられる場所であることから、慎重工事で対応してもらうこととした。

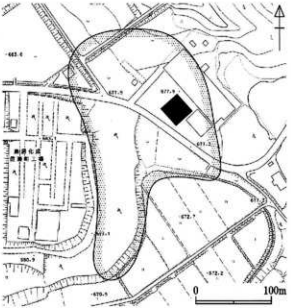


図19　丸谷地遺跡の範囲と調査地の位置

13．御料遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字平岡字裏屋敷添1635-5
原因	倉庫建設
調査方法	工事立会
調査面積	51.15㎡（工事面積）
調査日	平成24年10月９日
出土遺物点数	０点

B．遺跡の環境

御料遺跡は低地の中の微高地に形成された御料集落のほぼ全体に広がる遺跡で、縄文時代と平安時代の遺跡とされている（信濃町教育委員会，2003a）。これまでに個人住宅や家庭用倉庫建設に伴う工事立会がおこなわれている（信濃町教育委員会，2008a、2010、2012a）が、本格的な発掘調査はおこなわれていないことから、遺跡の詳細は不明である。

C．調査に至る経緯と調査の結果

遺跡内で家庭用倉庫の建設が計画された（図20）。建設予定地には倉庫があり、それを撤去した後にほぼ同位置へ同規模の倉庫を建設するという計画であったため、既存の建物の建設の際に改変され、遺跡が残されている範囲は少ないものと判断されたため、対応は工事立会とした。

基礎工事のために小型のバックホウで外周部分が掘り下げられた後に地層の確認をおこなった。掘削された深さは深いところで40cmで、地表から掘削した底面まで円礫を含む黒色土であった。過去の建物建設及びその撤去による攪乱を受けた地層と考えられ、遺物も発見できなかったことから、遺跡に与える影響は少ないものと判断し、調査を終了した。

図20　御料遺跡の範囲と調査地の位置

写真16　御料遺跡

文献

柏原町区誌編纂委員会　1988『柏原町区誌』

小林学　1968「長野県上水内郡信濃町狐久保遺跡緊急発掘調査概報」『信濃町誌』

小山正忠・竹原秀雄　1967『新版　標準土色帖』

信濃町教育委員会　1994『丸谷地遺跡・大道下遺跡発掘調査報告書』

信濃町教育委員会　1996『上ノ原遺跡（4次）ほか発掘調査報告書』

信濃町教育委員会　1997『大道下遺跡（4次）ほか信濃町内遺跡発掘調査報告書』

信濃町教育委員会　1998『上ノ原遺跡（7次）ほか発掘調査報告書』

信濃町教育委員会　1999『大久保南遺跡（4次）ほか発掘調査報告書』

信濃町教育委員会　2000『仲町遺跡（個人住宅地点）ほか発掘調査報告書』

信濃町教育委員会　2003a『信濃町の遺跡分布図』

信濃町教育委員会　2003b『平成14年度町内遺跡発掘調査報告書』

信濃町教育委員会　2004a「上田桑A遺跡発掘調査報告書」

信濃町教育委員会　2004b『東裏遺跡　東裏団地地点・町道柴田線地点発掘調査報告書』

信濃町教育委員会　2005『平成16年度町内遺跡発掘調査報告書―杉久保遺跡ほか―』

信濃町教育委員会　2006『平成17年度町内遺跡発掘調査報告書―狐久保遺跡ほか―』

信濃町教育委員会　2007a『平成18年度町内遺跡発掘調査報告書―清明台遺跡ほか―』

信濃町教育委員会　2007b「上ノ原遺跡・東裏遺跡・裏ノ山遺跡」

信濃町教育委員会　2008a『平成19年度町内遺跡発掘調査報告書―大道下遺跡ほか―』

信濃町教育委員会　2008b「上ノ原遺跡（第1次・北部高校分校跡地地点）発掘調査報告書」

信濃町教育委員会　2008c『上ノ原遺跡（第2次・町道地点）発掘調査報告書』

信濃町教育委員会　2008d『上ノ原遺跡（第5次・県道地点）発掘調査報告書』

信濃町教育委員会　2010『平成21年度町内遺跡発掘調査報告書』

信濃町教育委員会　2011『平成22年度町内遺跡発掘調査報告書―宮ノ腰遺跡ほか―』

信濃町教育委員会　2012a『平成23年度町内遺跡発掘調査報告書―辻原遺跡ほか―』

信濃町教育委員会　2012b「杉久保遺跡・丸谷地遺跡・一里塚遺跡ほか信濃町遺跡発掘調査報告書」

長野県上水内郡信濃町水道課　1978『野尻仲町水道工事立会調査報告書』

長野県埋蔵文化財センター　2000a「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15―信濃町内その1―裏ノ山遺跡・東裏遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡」

長野県埋蔵文化財センター　2000b「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書16―信濃町内その2―縄文時代～近世編」

長野県埋蔵文化財センター　2004「一般国道18号（野尻バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書3　信濃町内その3　仲町遺跡」

長野県埋蔵文化財センター　2013「一般国道18号（野尻バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書―信濃町内その5―大道下遺跡・清水原遺跡」

野尻湖人類考古グループ　1994「野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化」『野尻湖博物館研究報告第2号』

野尻湖博物館　1987『博物館だより№16』

渡辺哲也　1996「信濃町大久保南遺跡の調査」『第8回長野県旧石器文化研究交流会―発表要旨―』

報告書抄録

書名	平成24年度町内遺跡発掘調査報告書
副書名	上山桑A遺跡ほか
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財
シリーズ番号	
編著者名	渡辺智也
編集機関	保濃町教育委員会
所在地	〒389-1305　長野県上水内郡信濃町柏原428-2　TEL：026-255-5923
発行年月日	2013年（平成25年）3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
上山桑A	長野県上水内郡信濃町 大字野沉字上山桑2091-3	20583	54	36度 83分 75秒	138度 16分 89秒	20120724 ～ 20120802	12 （工事面積150）	試掘調査 （携帯電話基地局）
美野里	長野県上水内郡信濃町大字 富濃字諏訪の原2114-12	20583	103	36度 80分 31秒	138度 22分 63秒	20120625	2.4 （工事面積78.74）	試掘調査 （個人住宅）
清水東	長野県上水内郡信濃町 大字古間字清水東1374-8	20583	90	36度 79分 45秒	138度 21分 95秒	20120515 ～ 20120516	4.8 （工事面積72）	試掘調査 （個人住宅）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上山桑A	散布地	平安時代		土師器など	
美野里	散布地	縄文時代		出土品なし	
清水東	散布地	旧石器時代		出土品なし	

平成24年度町内遺跡発掘調査報告書

―上山桑A遺跡ほか―

発　行　平成25年（2013）3月31日
発行者　信濃町教育委員会
〒389-1305
長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2
TEL　026-255-5923
印　刷　三和印刷株式会社
〒381-2226
長野市川中島町今井1822-1
TEL 026-285-2300

2 0 1 3

Shinano-machi Board of Education,

Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan